

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-020301
(43)Date of publication of application : 28.01.1994

(51)Int.Cl.G11B 7/24

(21)Application number : 05-099444

(71)Applicant : TORAY IND INC

(22)Date of filing : 26.04.1993

(72)Inventor : OBAYASHI GENTARO
HIROTA KUSATO
SEO HISAYA

(30)Priority

Priority number : 04107545 Priority date : 27.04.1992 Priority country : JP

(54) OPTICAL RECORDING MEDIUM

(57)Abstract:

PURPOSE: To suppress deterioration such as the occurrence of defects even when recording is repeated many times and to enhance reliability by regulating the thickness of a 1st dielectric layer to a prescribed value or above and reducing the thermal damage of a resin substrate by heating at the time of recording.

CONSTITUTION: This optical recording medium has a 1st dielectric layer, a recording layer, a 2nd dielectric layer and a reflecting layer formed successively on the substrate, information can be recorded, erased or reproduced by irradiating the recording layer with light and the recording and erasing of information are carried out by a phase change between an amorphous phase and a crystal phase. The 1st dielectric layer formed between the substrate and the recording layer is made as thick as $\geq 250\text{nm}$. When the 1st dielectric layer is too thick, the time required to form the layer is prolonged and productivity is reduced, so the thickness is preferably regulated to 250-50nm. In order to further reduce the temp. of the interface between the substrate and the 1st dielectric layer, the thickness is especially preferably regulated to 300-500nm.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 24.02.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 23.10.2001

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of appeal decision]

(18) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許出願公告番号

特公平6-20301

(24) (40) 公告日 平成 8 年 (1996) 3 月 18 日

(51) Int. Cl.

H 0 4 N 7/10

識別記号

庁内整理番号

8943-5C

F I

技術表示箇所

発明の枚数 (全 15 頁)

(21) 出願番号 特願昭56-17728

(22) 出願日 昭和55年(1980)2月15日

(85) 公開番号 特開昭56-14937E

(43) 公開日 昭和55年(1980)11月1日

(31) 優先権主張番号 7 9 0 3 8 8 2

(32) 優先日 1979年2月15日

(33) 優先権主張国 フランス (F R)

審判番号 平2-16063

(71) 出願人 BUREAU

サンディカ・デ・コンストラクトゥー
ル・ダパレイユ・ラディヨ・レセプトウー
ル・エ・テレビジュール (エッセーアーエ
ールテ)

フランス国 75783 パリ市 セデックス
16。リュウ・アメラン 11

(72) 発明者 リュシアン・ブラウサン

フランス国 92210 サン・クルー・リュウ・
アルマンゴー 17

(74) 代理人 弁理士 堀橋 恭三 (51名)

審判の合議体

審判長 足立 忠男

審判官 小暮 与作

審判官 長島 孝志

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 オーディオ・ビデオ相互接続装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 テレビ受信装置 (TV)、複数の周辺装置 (P1、P2) のアナログ入力/出力を選択的に相互接続するためのオーディオ・ビデオ相互接続装置において、

前記テレビ受信装置および前記周辺装置の入力および出力を接続するための入力接続端子および出力接続端子を有する周辺テレビ多重ピンコネクタ (PRTX、PRT1、PRT2) と、前記周辺装置の送信機能と関連する第1のグループと前記周辺装置の受信機能と関連する第2のグループの2つのグループに組織されたアナログ接続線と、前記アナログ接続線の相互接続を選択的に確立する制御部を含む。

前記周辺テレビ多重ピンコネクタの入力接続端子は前記受信機能と関連する第2のグループのアナログ接続線と

接続され、前記周辺テレビ多重ピンコネクタの出力接続端子は送信機能と関連する第1のグループのアナログ接続線に接続され、

前記制御部は、前記周辺テレビ多重ピンコネクタの出力接続端子に接続された第1のグループのオーディオ信号のアナログ接続線とビデオ信号のアナログ接続線を、異なる複数の周辺テレビ多重ピンコネクタの入力接続端子と接続された第2のグループの対応する前記アナログ接続線に選択的に接続することを特徴とするオーディオ・ビデオ相互接続装置。

【請求項 2】 前記制御部は、前記対応する周辺装置を動作させる仕様に関する詳細な情報が記憶されているリード・オンリ・メモリおよび前記詳細な情報を前記テレビ受信装置に表示するように動作する自動視覚化装置 (AV) を含むことを特徴とする、特許請求の範囲第1項記

載のオーディオ・ビデオ相互接続装置。

【請求項3】前記テレビ受信装置(TV)内に設けられている感応部材(OS)は制御キーボードにより発する命令を前記制御部に伝送し、これらの命令をデコードする手段は前記制御部内にのみ置かれていることを特徴とする、特許請求の範囲第1項又は第2項のいずれかに記載のオーディオ・ビデオ相互接続装置。

【請求項4】それぞれに対応の前記制御部(CM1, CM2, ...)とを備えた前記周辺装置(P1, P2, ...)が相互に直列接続によってリンクされていることを特徴とする、特許請求の範囲第1項記載のオーディオ・ビデオ相互接続装置。

【請求項5】前記制御部はケーシング(B)内に挿入されるプラグ挿込カードの形態で構成され、前記ケーシングの底壁は前記アナログ接続線の支脚の役割をすることを特徴とする、特許請求の範囲第1項から第4項のいずれかに記載のオーディオ・ビデオ相互接続装置。

【請求項6】前記プラグ挿込カードは同じ寸法を有し、そしてケーシング(B)の内部に該プラグ挿込カードと前記アナログ接続線を接続するコネクタ(CN)を備えていることを特徴とする、特許請求の範囲第5項記載のオーディオ・ビデオ相互接続装置。

【請求項7】前記制御部は、前記テレビ受信装置(TV)のスクリーン上にいわゆる「像内像」と称する補助像を挿入するのに必要な制御及び切替動作を生じる装置を備えるモジュール(IDI)をさらに含み、該モジュールが主像と二次像とを使用可能な全ソース中から選ぶ手段を有することを特徴とする、特許請求の範囲第1項から第6項のいずれかに記載のオーディオ・ビデオ相互接続装置。

【発明の詳細な説明】

(イ) 産業上の利用分野

本発明は少なくとも一つのテレビセットと、複数の周辺装置例えばマグネトスコープ、ビデオ機器、テレテキスト受信器、又は衛星により伝送される放送の受信器とを接続する動的なオーディオ・ビデオ相互接続装置に関する。

(ロ) 従来技術及びこの発明が解決しようとする課題

現在のところテレビセットには一度にただ一つの周辺機器しかつなぐことができない。のみならずこれら周辺機器の数は少なく、電子装置、マグネトスコープ(受信器のアンテナを通じ無線周波数でつながる)、可聴周波数でつながるマグネトフォーンくらいである。

ところが、近い将来家庭テレビセットにつながる周辺機器の数は著しく増加しようとしている。なんとすれば次記のものを使用し得るようになるからである。

- ・新規のラジオ放送に特有のターミナル。
- ・いま次記のように呼ばれる大衆向け電気通信。

＝アンティオープン(ANTIOPE)と称し、テレビジョン信号中にばり入れられ又はチャンネル一杯に放送さ

れる無線放送されるテレテキスト。

＝エペオス(EPEOS)と称し、受けたプログラムを自動的に記録する業務。

＝秘密(DISCRET)と称し、適当な復号器を装備した視聴者専用のテレビジョン業務。

＝ティタン(TITAN)と称し、公用路線を利用しつつ映像はテレビ受信器による相互テレテキスト。

・既知の用途マグネトスコープ、ビデオ機器に加わる監視カメラ、スライドやフィルムの解析器、ビデオディスク、像内像など新規の用途。

なお予想し得ることであるが視聴者は、テレビセット及び周辺機器に合わせてハイファイ【オーディオ】系統の要素を使用し、以て完全に整備された家庭用視聴装置を入手したいものである。

ケーブルとコネクタと必要に応じて手でつなぐのも一つの解決かも知れない。だがこれは複雑な方法で、平均的視聴者の手に及び難く、接続違いが可能なため信頼度が低く、従って結局現実性が乏しく、又その用法の複雑さの故に失敗し易い。

一つの良法としては、相互接続のあらゆる可能な組み合わせを確保する機械的スイッチ式を使用することであろう。しかしこのような装置は重く、複雑で、従ってこれも不満足なものである。

本発明の装置は家庭用視聴装置の各種構成要素を相互接続して視聴者にその所有する各装置を同時に使用させる装置である。

本発明が使用する相互接続の対象となる装置は互いに異なるもので、少なくとも該装置の大部分は異なっている。そして、装置のあるものは受信機のみであり、又ある装置は送信機のみであり、又ある装置は送信及び受信機を兼ねている。

本発明の目的は、上記3の型の装置の非常に容易かつ自由な相互接続を、唯にでもそして与えられた最大数の装置間で各型に属するいずれの装置に対しても許容できる装置を提供することである。

本発明は周辺テレビ多重ピンコネクタの利益を用いるが、新規かつ簡単な装置である。

(ハ) 課題を解決するための手段

本発明によると、装置(テレビ及び周辺装置)の接続のため、周辺テレビ多重ピンコネクタが与えられ、アナログスイッチ及びマトリックスを介してコネクタは共に接続される。

本発明のコネクタは特に入力コネクタ又は出力コネクタではなく、単に受信機又は送信機又は受信及び送信機が接続される入力接続端子および出力接続端子を有するコネクタである。このことは、周辺テレビ多重ピンコネクタにおいて、各接続端子は決定されたオーディオ・ビデオ信号及び該信号の決定された方向(送信又は受信)に対応するという事実により可能とみなされる。このため、本発明の周辺テレビ多重ピンコネクタは、どの種類

の周辺装置が使用者によって各特別のコネクタに接続されるかを設計者が知る必要もなく、さらに周辺装置が送信機、受信機、又は送信及び受信機であるかを知る必要もなく、マトリックスに接続され得る。

テレビ受信機用に与えられるコネクタだけは、周辺装置の受信機能と対応する接続端子はテレビ受信機の送信機能と対応し、そしてその逆の関係になるように多重ピンコネクタ上に特に接続されなければならない。

さらに、制御線は、周辺テレビ多重ピンコネクタの出力接続端子に接続された第1のグループのオーディオ信号のアナログ接続線とビデオ信号のアナログ接続線を、異なる周辺テレビ多重ピンコネクタの入力接続端子に接続された第2のグループの対応する前記アナログ接続線に選択的に接続するために設けられている。これは実際上、例えば、第1の多重ピンコネクタからのビデオ出力接続端子が第2の多重ピンコネクタのビデオ入力接続端子に接続し、この間に前記第1の多重ピンコネクタのオーディオ出力接続端子は第3の多重ピンコネクタのオーディオ入力接続端子に接続されることができるとを意味している。この構成は装置の送信及び受信機能を夫々別個の装置と単に接続するだけでなく、該装置の個別の送信機能又は個別の受信機能を個別の装置に接続することを可能にし、考え得る有用な相互接続が達成される。

(二) 実施例

本発明の爾余の特徴及び利点を以下に添付図面を参照しながら詳しく説明する。

第1図を見るに、本発明の本体SはテレビセットTVと若干数の周辺装置Pとの間に置かれこれと両者間に選択性の機能的相互接続が確立する。

上記の相互接続は両方向用であり、周辺機器Pから、通常は周辺機器が発生もしくは伝送する「有効なるオーディオ及び(又は)ビデオ」信号なる情報Iをテレビセット(テレビ受信装置)TVに向けて伝送させる他、テレビセットから周辺機器に向けて命令Oを伝送させることもできる。このためテレビセットTVは遠隔制御パルビットCTから信号を受けこれを本体Sへ伝送する感応部材OSを有する。

周辺装置の数は限られておらず、そしてテレビセットの数など無関係である。

周辺機器Pと本体との機能的相互接続を更に正確に第2図に示す。但し図中周辺機器の数は非限定とする。これらの周辺機器はビデオ(オーディオ・ビデオ)装置と、純粋なオーディオ装置とに分かれる。

ビデオ(又はオーディオ)周辺機器のうち図示したのは、

P1が、衛星の伝送する放送を捕える1.2GHzの受信機12、

P2がマグネトスコープ、

P3はテレビセット上に映画のフィルムを視覚化するフィルム解析器、

P4は上記と同じ目的を有するスライドの解析器、

P5はビデオカメラ、

P6は像内像の発生器、

P7はテレテキストの受信器(アンチオープン【ANTI-OPEN】と称す)、

P8は会話テレテキストの送受信器(ディタムと称する)、

P9は貯蔵番組の伝送器(ディスク【DISCREET】と称する)、

P10は記録すべき番組中に含まれ信号に基づきマグネトスコープを自動的に使用する装置、(エペオス【EPEOS】と称する)

P11はビデオ装置、

P12はオーディオグラフ発生器、

P13はビデオ=円板読取器、

P14はモニタテレビ、即ち業務用受信器である。

純粋にオーディオの周辺機器のうち

P20はAMの受信器、

P21はFMの受信器、

P22はカセット式マグネトホン、

P23はテープ式マグネトホン、

P24は円板の数字読取器、

P25はターンテーブル、

P26は低周波数増幅器であって拡声器HPを有する。上記周辺機器はそれぞれ方向を示す矢印によって装置につながる。例えば1.2GHzの受信器P1は有効ビデオ信号と有効オーディオ信号とを送信する。これに反し、マグネトスコープP2は上記のような信号を同時に送信及び受信をすることができる。

ビデオ信号は第2図に示すように、周辺機器の性質如何によって複合ビデオ信号であるが、或いは例えば赤、緑、青の三つの基本的信号の三つの一次関数に対応する信号である。

純粋オーディオの範囲内ではマグネトホンP22、P23のみが有効信号を送信および受信し、他のものは送信だけまたは受信だけをする(増幅器P26)。

テレビセットTVはビデオでもオーディオでも同様に受信と送信とをする。その他に赤緑青の信号と、周辺テレビのコンセント(周辺多重ピンコネクタ)PRT1を通じての像内像装置に対応する信号とを受信する。

遠隔制御線TC(斜線を施した)は感応部材から発し、本体Sを経て全周辺機器に達し、それらの選択使用を得させる。

特にマグネトスコープの自動始動器EPEOS(P10)の場合は、上記の周辺機器が単に業務用ビデオ信号の受信器に過ぎずして、線TCを通じてマグネトスコープP2を始動する。

以下第3図乃至第8図を参照して本装置の構成と相互接続の実施例とを更に詳しく説明する。

第3図において、P1、P2などの各周辺機器は周辺デ

テレビのコンセントPRT1、PRT2を介してモジュールカード(制御座)CM1、CM2に接続されている。他方、モジュールカードは多線のアナログバス(アナログ接続線)BANを介してテレビセットの周辺テレビのコンセントPRTにつながり、このことがテレビセットと周辺機器との間に有効情報の通過を確保する。周辺テレビのコンセント(周辺多重ピンコネクタ)はテレビセットおよび周辺装置の入力および出力を接続するための入力接続端子および出力接続端子を有し、入力接続端子は受信機能と関連するアナログバスと接続され、出力接続端子は送信機能と関連するアナログバスに接続される。

データ線DがコンセントPRTを介して感応部材OSにつながって使用者の命令を受けるとともにこれをマイクロコンピュータMPへ伝送する。同マイクロコンピュータは上記命令を復号してそれを多線データバスBDによりモジュールカードへ伝送してアナログスイッチCA1、CA2を選択的に開閉し、且つ一つ又は複数の所定周辺機器とアナログバスBANとの間の対応連絡を有効化する。この操作はモジュールカードをマイクロコンピュータにつなぐアドレスバスBADと協調して行われる。

交換線Eがモジュールカード同志、テレビセット及びマイクロコンピュータを接続し、特にマイクロコンピュータによってデータ線に対する業務情報の秩序ある流れを確保する。

最後に、自動視覚化装置AVはデータバスBD、マイクロコンピュータが発する復号した信号、並びにモジュールカード内の記憶装置ROM1、ROM2に含まれる仕様に従ってマイクロコンピュータとモジュールカードに接続する。上記仕様は使用者がその望む相互接続を行わせるため与えなければならない命令の詳細を含む。自動視覚化装置AVはアナログバスBANを通して上記仕様をテレビセット上に視覚化する。

線D及びEの双方で上記の遠隔制御線TCを構成する。実際には、本装置のケーシングB(第8図)内ではCM1の如きモジュールカードが、使用する周辺機器に相当する数だけ、何れも互いに等しい繰返し式コネクタに嵌合して必要な場合補充のモジュールカードを加えることのできるモジュール性を与えるようになっている。各モジュールカードは記憶装置ROM1、スイッチ群CA1並びに復号器DEC1を有する。

明瞭のため第8図では番号1を付けたただ一枚のモジュールカードしか示していないが、ケーシングBがこれを或る数だけ含んでいることは勿論である。

モジュールカードに続いてマイクロコンピュータMPを担持するカードCMP、自動視覚化装置AVを担持するカードCAV、及び装置IDI用のカードがあり、このモジュールは手持ちの全ソース中から主たる像と二次の像とを選ぶ装置を有する。

最後に、ケーシングBは更に給電変圧器TAを有する。各モジュールカードCM1には周辺テレビのコンセントPRT1が対応するが、テレビセットとの連絡のためにはもう一つのコンセントPRTXが設けられている。第6図の簡略化した図によれば、ケーシングの底には各種のバスと線とが設置されている。明瞭のためここには第2図の周辺機器P1、P2、P5、P11、P14とテレビセットTVだけが残していない。

テレビセットTVは一本のビデオ線と三本の線R、V、Bとにつながる。

衛星受信器P1はモジュールカードCM1、スイッチCA1の操作によってテレビセットTVなり或いはモニターP14なりにつなぐことができる。同様にビデオカメラP5はスイッチCA2の操作によって上記受信器の何れかに接続することができる。ビデオ装置P11は複合ビデオとして又は赤緑青ビデオとしてテレビセットTVに接続することができる。

図示の例においては各種周辺機器が並列に、第5図に示す通りモジュールカード全体を含むケーシングBにつながる。また直列接続もでき(第4図)、その場合モジュールカードは個々にマイクロコンピュータ(MP1、MP2)を有する対応の周辺機器につながる。

第9図にケーシングBの底の構造を詳細に示す。1~39の番号を付した縦の線は接続線であって、それぞれに少なくとも受信機能を有する装置に關係あるバス毎に纏められている。詳しくは

- ・線1~8はマグネトスコープバス(受信)P2
- ・線9~13はモニターバスP14
- ・線14~26はテレビセットバスTV1
- ・線27~39はテレビセットバスTV2

となる。

これら四つのバスは勿論既述のアナログバスBANの一部である。

詳しく言えば上記の線は次記の機能に対応する。

- 1 交換
- 2 データ
- 3 オーディオD入力
- 4 オーディオG入力
- 5 オーディオD出力
- 6 オーディオG出力
- 7 ビデオ出力
- 8 ビデオ入力
- 9 データ
-
- 10、11、12 赤緑青
- 13 ビデオ出力
-
-
- 14 交換
- 15 データ

- 16 急速制御
- 17 緩徐制御
- 18 赤
- 19 緑・・・出力
- 20 青
- 21 オーディオD入力
- 22 オーディオG入力
- 23 オーディオD出力
- 24 オーディオG出力
- 25 ビデオ出力
- 26 ビデオ入力

線27～39は線14～26の機能を同じく繰返す。

交換線1, 14, 27は実は只一つの同じ線、即ち先に述べた線Eである。線2, 9, 15及び28についても同様で、これらは線Dを構成する。

横線は、少なくとも送信機能を有する周辺機器即ち12GHzの受信器(P1)、マグネトスコープ(送信機能において)(P2)及びフィルムの(赤緑青への)解析器(P3)、へのプラグに相当する。

12GHzの受信器の場合コンセントは上から下へ次記の機能に対応する。

- ・ 交換
 - ・ データ
 - ・ オーディオD入力
 - ・ オーディオG入力
 - ・ ビデオ入力
- マグネトスコープについては、

- ・ 交換
- ・ データ
- ・ オーディオD入力
- ・ オーディオG入力
- ・ オーディオD出力
- ・ オーディオG出力
- ・ ビデオ出力
- ・ ビデオ入力

フィルム解析器については

- ・ 交換
- ・ データ
- ・ 赤入力
- ・ 緑入力
- ・ 青入力
- ・ オーディオD入力
- ・ オーディオG入力
- ・ ビデオ入力

横線は少なくとも若干のバス線に恒常的に接続している。例えば線全部が二台のテレビセットに対応する線に並列につながれている。ビデオ線はモニタP14のビデオ線につながれ、フィルム解析器の赤線、青線はモニタとテレビセットとの赤線、青線につながれる。マグネトスコープがそれ自身につながれることは勿論ない。

上記の恒常接続は像をモニター又は二つのテレビセットの何れかに、或いはこれら受信器全部に現させる周辺機器P1, P2, P3のモジュールカードに関係あるスイッチCA1, CA2, CA3によって選択的に動作可能にされる。

音響の伝達はマグネトスコープを推くのと同様、同程度の選択を要する。

緩徐制御及び急速制御もまたテレビセットの対応線に紐ながれる。

図で以下にモジュールカードCM1の機能的構造を第10図により詳しく述べてその動作態様を明らかにする。

周辺テレビのコンセントPRT1により、モジュールカードは図面の右にあると想像される対応周辺機器につながる。周辺機器から(又はへ)のアナログ情報はアナログバスBANによりテレビセット(又は他の周辺機器)へ、アドレスバスBADからモジュールカードのアドレスがPAにおいてプログラムされているアドレス復号器DEC1を介して制御されるアナログスイッチCA1を通じて、伝送される。

第13図は第9図のアナログスイッチCA2を詳細に示す回路図である。第13図においてアナログスイッチCA2は5個のスイッチ要素SE1～SE5からなり、各スイッチ要素は複数のアナログ入力とひとつのデジタル制御入力、及び1つのアナログ出力を有する。デジタル制御入力アドレス復号器DECからアドレスバスBADを介して入力し、各スイッチの開閉を制御する。

以上の復号されたアドレスはデータバスBDよりのBDAとアドレスされた要素により記憶装置ROMを駆動する。記憶装置はここでそのBDVの内容をバスBDを通じて自動視覚化装置AVへ伝えてこれをテレビセット上に表示させる。

業務情報の交換線E及びデータ線Dによる流れについては、第11図及び第12図を見た方がよく判る。第11図(左方部分)においてはマイクロコンピュータMPが交換線Eを通じて周辺機器P1に質問するものとする。周辺機器P1は交換線E(中央部)に答え、且つ上記質問に次いで周辺機器P2にデータ線D(右部分)を通じ命令を発する。この命令の伝送を妨げるものではない、なんとすれば交換線Eを通じてマイクロコンピュータが周辺機器P1にだけ送信許可を与えるからである。

第12図は上述の如き通信において使用者が感応部材OSを介して命令を与え、その感応部材が遮断制御のバルビットにより作動される場合の干渉を示す。これらの命令は復号器DECを介してマイクロコンピュータMPへ送る。

以下簡単な例により、第7図を参照しながら本発明の装置の可能な用途を説明する。

使用者が有する設備はテレビセットTV以外に次記のものとする。

- ・ 衛星が伝送する12GHz放送の受信器P1、

- ・ 監視カメラP5
- ・ マグネトスコープP2
- ・ テープ式マグネトホーンP23
- ・ スピーカ二つを有するハイファイの低周波増幅器P26

使用者が望むのは、

- ・ テレビセットで、衛星が伝えるオペラ放送を見ること
- ・ 同放送の音をハイファイセットで聞くこと
- ・ その音をテープ式マグネトホーンに記録すること
- ・ レコーダに、同時刻にUHFで放送されたアンテナで受信する普通の放送を録音すること
- ・ 監視カメラで小児室を少なくとも一時的に監視すること

とする。
使用者は先ず遠隔制御バルビットCTで、特定周辺機器の始動に相当する簡単なコードを叩く。遠隔制御の線TCによってマイクロコンピュータに伝えられる上記命令はテレビセットTVのスクリーンに、当該周辺機器に対応するとともに実際に所望の仕事を実効的に得るために行われなければならない操作の詳細を指示する記憶装置ROMの内容を表示させる。そこでこれらの操作をバルビットCTで実行する。

周辺機器が遠隔制御線TCを通じて伝送される命令通りにうまく接続されていれば、12GHzの受信器P1からのビデオ情報はテレビセットTVに伝送され、そのオーディオ情報はハイファイ装置P26と、テープ式マグネトホーンP23とへ並列に伝送される。アンテナにつながるマグネトスコープP2は同時にもう一つのプログラムを記録し、ビデオカメラP5のビデオ情報はモジュールD1(像内像)を介してテレビセットTVへ伝送される。

遠隔制御の用法を或る程度簡単にするため、本発明では文字数字キーに関連する専門キー(例えば音量の増減の)の使用を考えている。

コードの情報を伝えるためにはいろいろの方法を使うことができる。

a) 例えば送信器のキーに「V」「C」「R」を打つと、送信器がVCRの文字全部に対応するコードを伝えて来るようにする。

従って選ばれた例において使用者がキー「V」「C」「R」を順次に操作したとすれば、復号器は受信したコード信号を組合せてコード「VCR」を形成する。

b) もう一つの方法としては送信器が一字毎に又は信号毎に伝送する。

専門キーは何れの場合にも所定のコードを送信する。上記の両方を組合せた方法もまた用いることができる。制御される周辺機器の数においても、各周辺機器毎の制御数においても、今後可能な増加に対する安全領域を保

留するため、コードは次記の如き各部で構成すると良い。

1. 「始動」区域
2. 周辺機器アドレス区域：保護手段を含む可し
3. 制御コード区域：保護手段を含む可し
4. 場合により整合のビットを有する区域
5. 「ストップ」区域

区域2及び3の長さはその含有する情報の数による。現に周辺機器の数はアドレス区域の長さを、その保護をも含めて増加するものであり、制御の数は制御区域の長さをその保護をも含めて増加するものである。

(ホ) 効果

本発明の装置によれば周辺機器間に所望の各種相互接続をその相互接続の技術的複雑さ如何に拘わらず実現することができる。

使用者は簡潔な命令を与え、次にそれを詳細な命令で確認するだけで足りるが、その際詳細な命令は自動的にテレビセットに表示されるからその複雑さは障害とはならない。

接続は電子スイッチで行われるから如何なる接続器やケーブルの接続も、それを物質的に操作することもない。以上の使用に於ける柔軟性及び簡易さに加えてモジュール構造の利点があって、これにより、新規の周辺機器取得の場合などに補足のモジュールカードを追加することができる。

勿論、本発明は以上に説明した例に限らずその範囲内で種々変形を考案することができる。例えばモジュールCM1、CM2はそれぞれ別個のカードに装着し且つ物理的に分離した回路でなくて、同一のプリント回路の支架上に物理的に置いた回路としても可い。そうするとこれらのモジュールをもっと一般的に制御部と呼ぶ方が理論的である。この様な実施形においては、復号装置DEC1、DEC2などはこれを単一の復号回路内に集めることができる。

【図面の簡単な説明】

第1図は本発明の対象物を示す機能的ブロック図である。

第2図は本発明の原理図であって一連の若干部材の代表的分布を示す。

第3図は原理の概要図で連鎖各段の相互接続と連絡路線とを示す。

第4図と第5図の両図はそれぞれ直列構造と並列構造との原理を示す。

第6図はケーシングの底の構造をモジュールカードとの関係で概略的に示す。

第7図は特に遠隔制御連絡の配置を示す全概略図である。

第8図はケーシングの透視図であるが一部が除いてある。

第9図はケーシングの底に設けられた線の詳細図の一部

である。

第10図はモジュールカードの説明概要図である。

第11図は二つの周辺機器間の会話的交換法を示す機能図である。

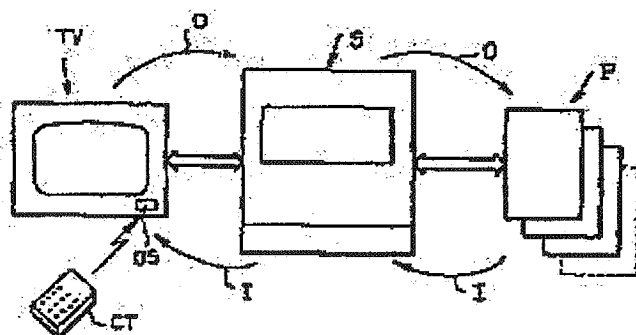
第12図はテレビセットその操作部材との連絡機能を示す機能図である。

第13図は第9図のアナログスイッチCA2の詳細な回路図である。

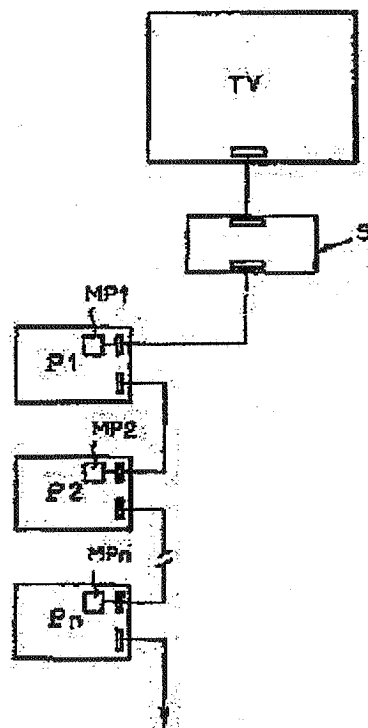
AV 自動視覚化装置
B ケーシング
BAD アドレスバス
BD データバス

CA アナログスイッチ
CM モジュールカード
CT 遮断制御バルビット
I 情報
MP マイクロコンピュータ
O 命令
OS 感応部材
P 周辺機器
PRT 周辺テレビのコンセント
TA 給電変圧器
TV テレビセット

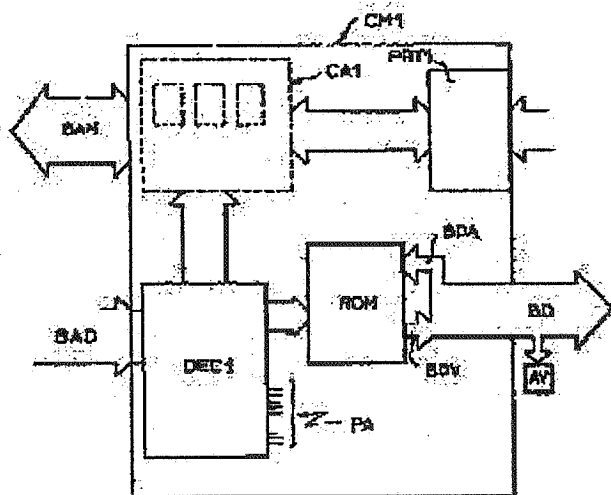
【第1図】



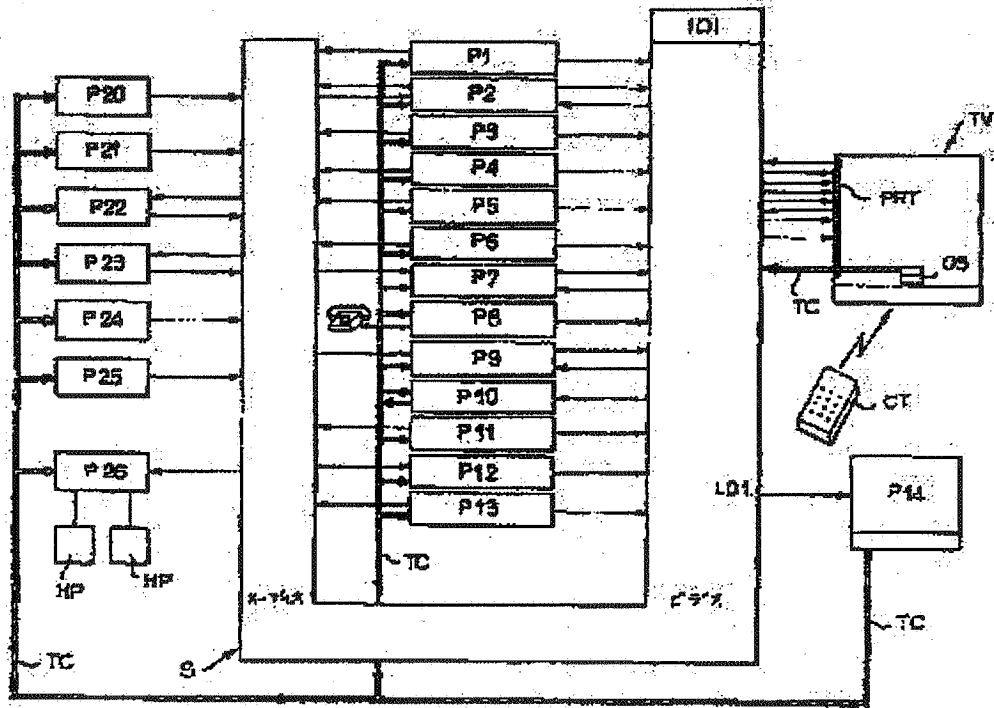
【第4図】



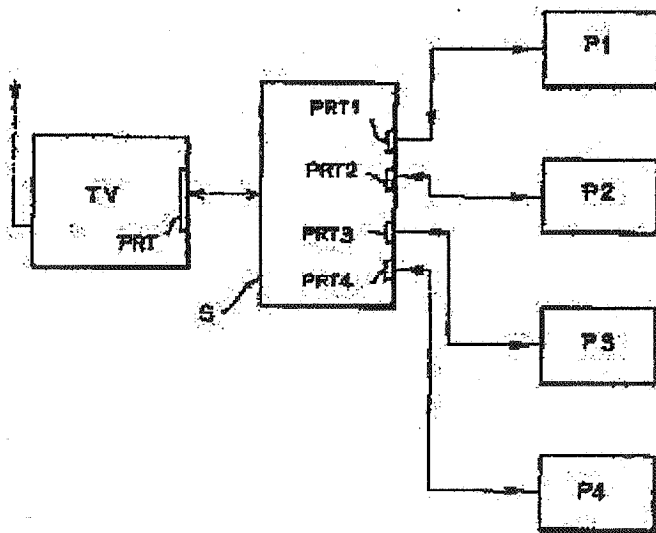
【第10図】



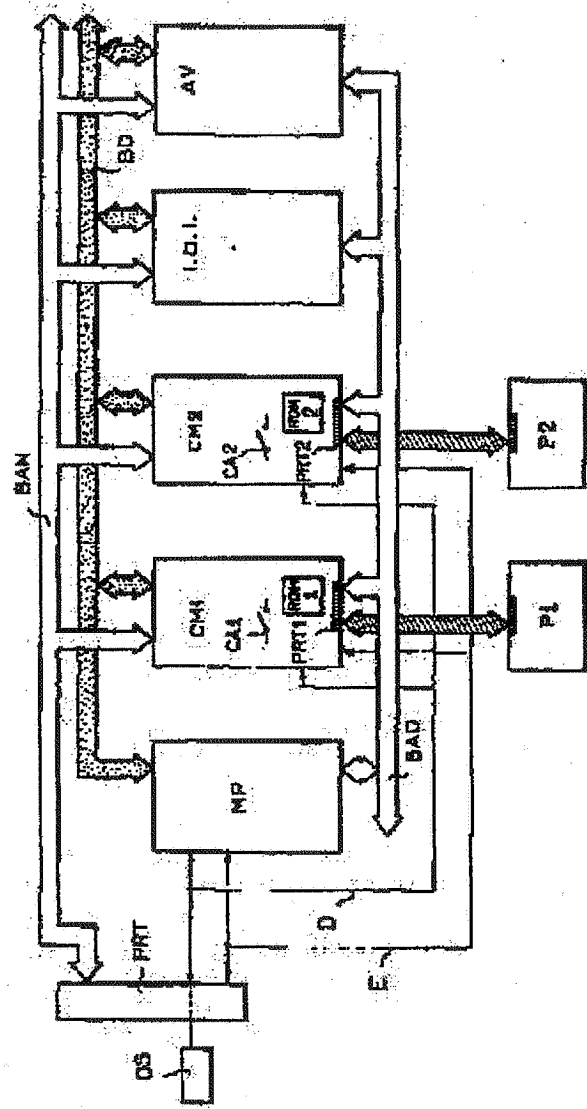
【第2図】



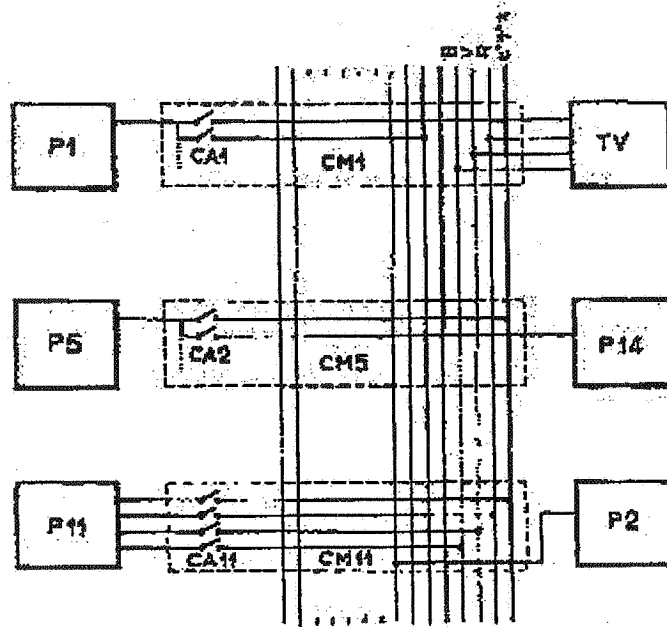
【第5図】



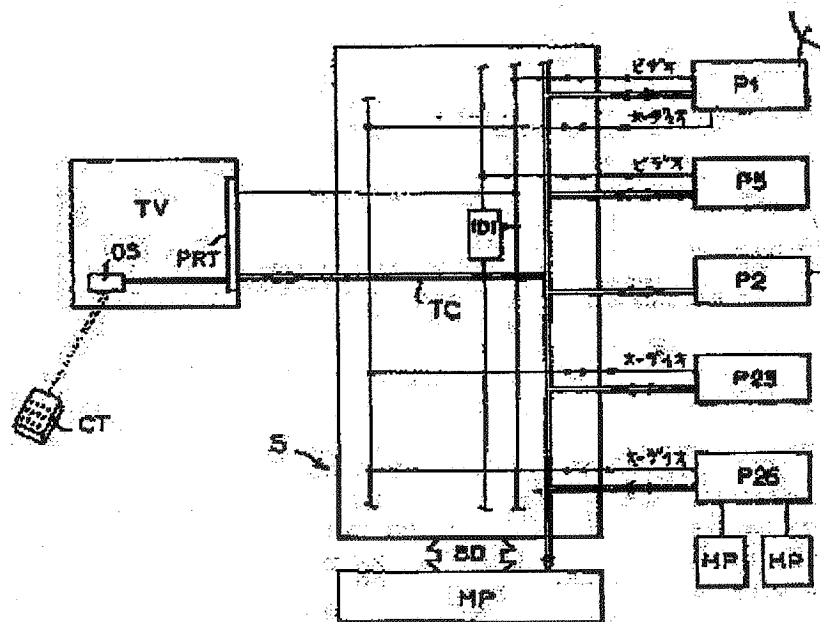
【第3図】



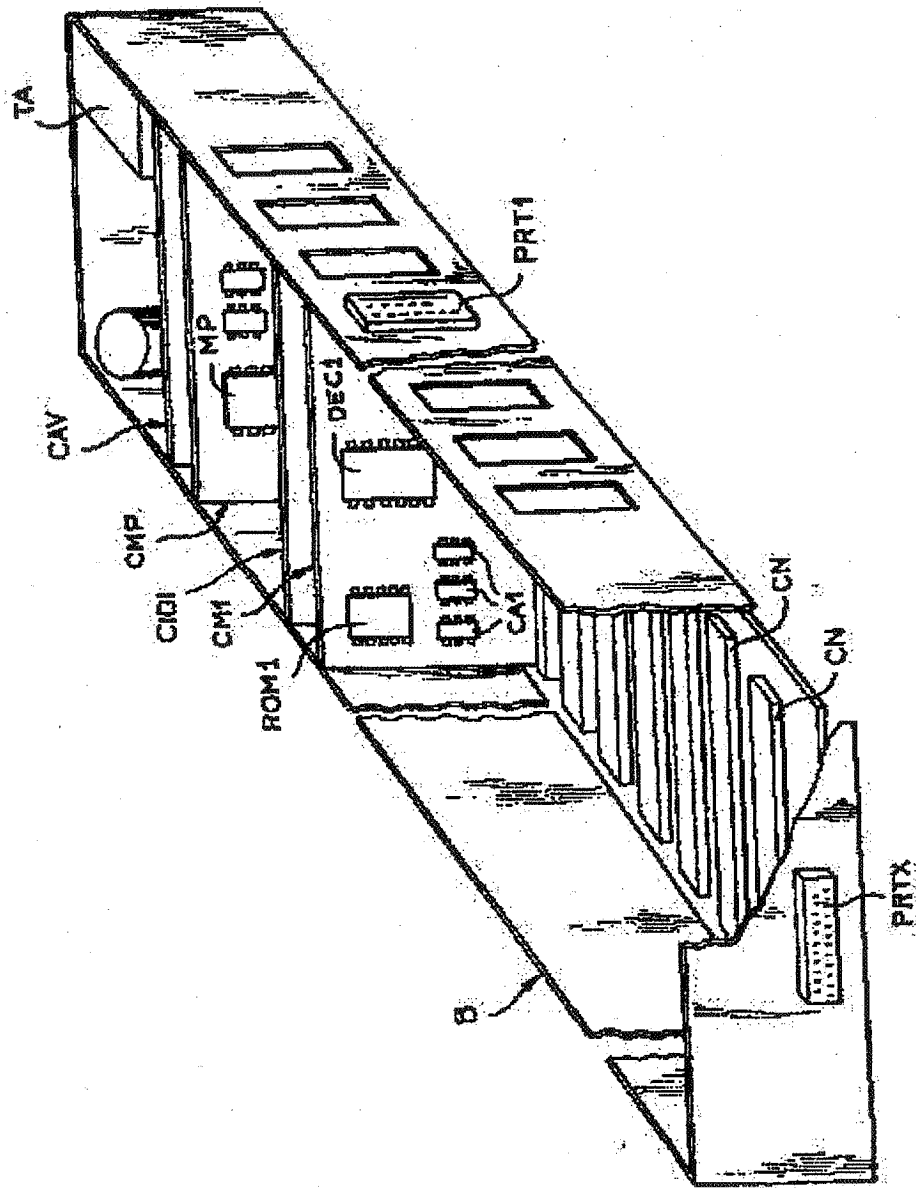
【第6図】



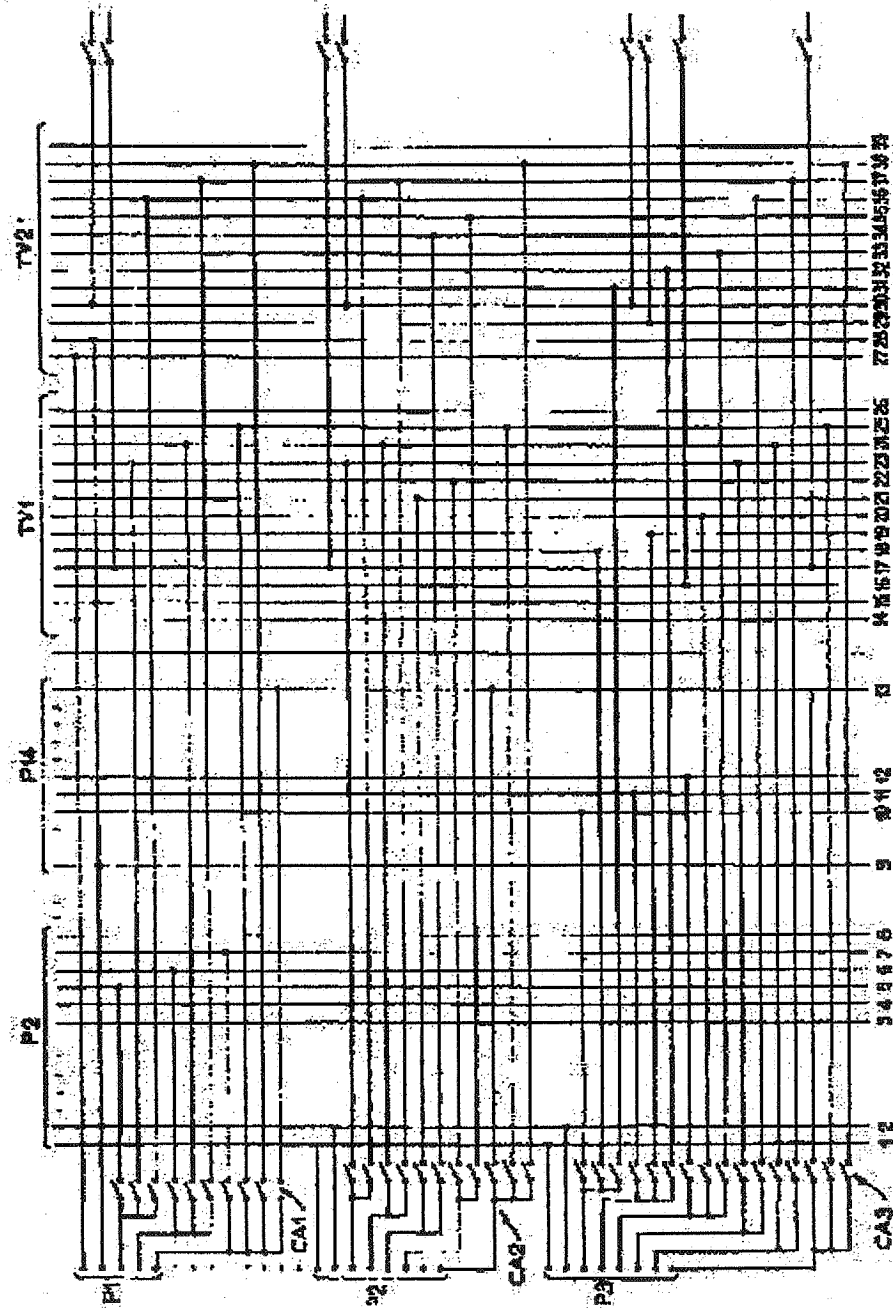
【第7図】



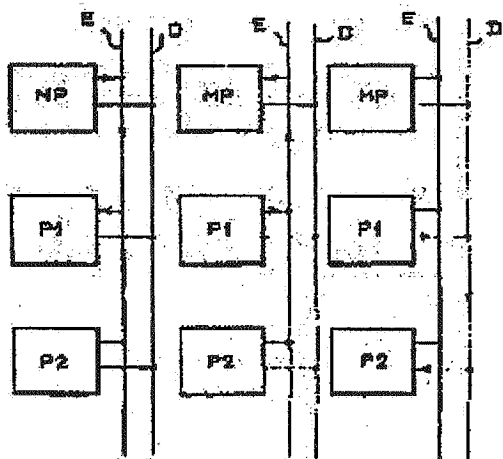
【第8図】



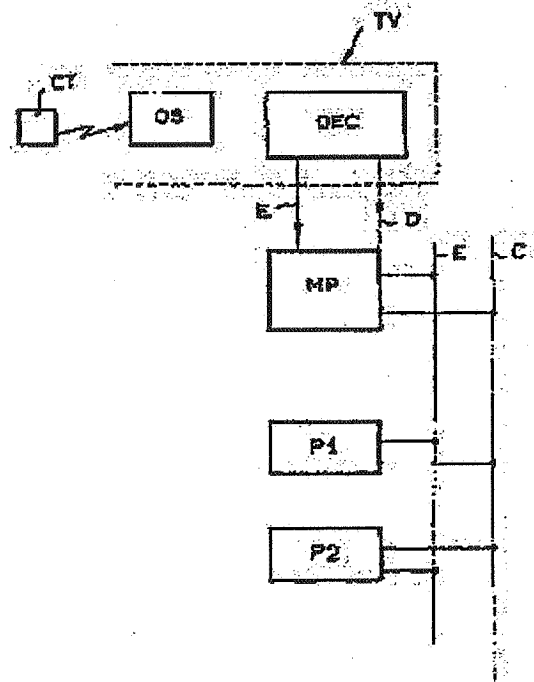
【第9図】



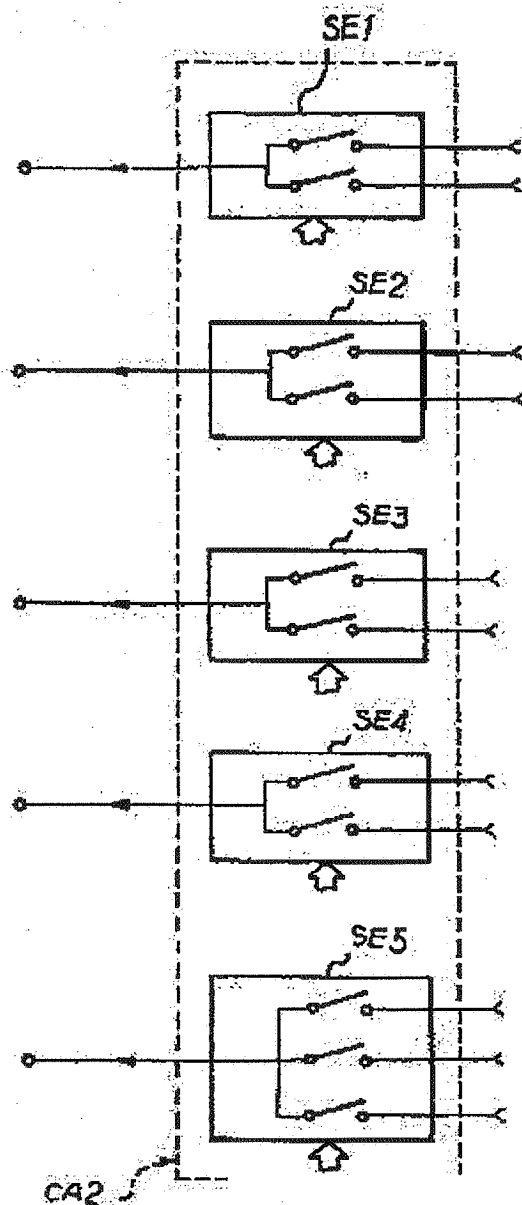
【第11圖】



【第12圖】



【第13図】



フロントページの続き

(72)発明者 ベルナール・コンダ
フランス国49220ル・リヨン・ダンジユ
ル・プラス・アリックス・ラ・マンフロル
6

(72)発明者 ジャック・フオルタン
フランス国91600サビーニユ・シユール・
オルジュ・リユー・ラシーヌ9

(72)発明者 アレン・ルジユル
フランス国49820ジユイーニユ・ジュー
ル・ロワール・モントジレ(番地なし)

(72)発明者 ジョセフ・ソト
フランス国92120モンルージュ・アブニ
ー・マックス・ドルモユ212

(72)発明者 ジャン・クロード・ソルバント
フランス国92000ナンテール・リユー・
ド・サン・クルー123

(56)参考文献 特開 昭54-24532 (J.P., A)
実開 昭53-17114 (J.P., U)